第55回日本水環境学会年会

「知の拠点」として これからの社会で果たす役割

日本水環境学会は、研究の発展と会員間の交流を促す場として、毎年春に年会を開催している。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催となるものの、社会の中で「水」や「公衆衛生」への注目が高まっており、まさに今、水環境分野の知の拠点として、同学会が果たす役割は大きくなっている。今回、松井会長に年会の見どころや学会の果たすべき役割などについて語っていただいた。

日本水環境学会会長
松井　佳彦氏

■初のオンライン年会

日本水環境学会では、水環境分野の幅広い研究の発展と会員相互の情報交換を促進するため、毎年春に年会を開催しています。年会では、600件を超える研究発表のほか、各種表彰式や水環境ビジネスガイダンス、会員企業・研究機関等就職説明会などさまざまなプログラムが3日間の中で企画されています。毎年学会の川崎直人教授、幹事長は京都大学の越後信哉准教授、副幹事長は大阪工業大学の笠原伸介教授に務めていただき、京都大学を中心に関西地域の関係者に尽力していただいているところです。

実際にはオンラインでの開催となりますが、現地開催の雰囲気づくりができればと考えております。

学会には年会のほか、秋ごろに開催するシンポジウムとWater and Environment Technology Conference 2020（WET2020）といった三つの大きなイベントがあります。昨年は残念ながら、シンポジウムもWETもオンライン開催となりました。

年会をオンライン開催するのは今回が初めてですが、年会よりも小規模なシンポジウムとWETのオンライン開催に向けて検討部会を設け、開催の実績もできたため、学会最大のイベントである年会に対してもノウハウと経験が活かされたことは非常に良かったと考えています。

実際の企画・運営については、実行委員会のメンバーや年会・研究委員会の皆さまに〝オンライン〟であっても今まで通り、いつもと同じ年会に近い形の開催〟という目標でご尽力いただいています。そのため、各表彰はもちろんのこと、学生向けセミナーや会員企業・研究機関等就職説明会なども従来通り開催する予定です。

また、今年は前京都大学総長の山極壽一氏に「コロナ後の人と自然の関係について考える」と題した特別講演を行っていただきます。山極氏にご講演いただくことで、オンラインながらも「京都大学らしさ」を感じていただけることに期待を込めています。

学会員の交流の場として（第53回日本水環境学会年会）

■コロナ禍での1年半

一昨年の6月に会長に就任して、9月に札幌でシンポジウムを開催し、「これからどのように学会運営をしていくか」と考えていたところで新型コロナが流行し、コロナ対応に追われ続けた1年半でした。先ほどの話にあったように、3月の年会を開催するかどうか、職員の在宅勤務の体制をどうするかなど、さまざまなルールづくりも行いました。昨年はコロナ禍での事務局長交代もありました。

一方、5月5日には会長の直属組織として、水環境分野における新型コロナウイルス感染症に関連する学術的研究の積極的推進と科学的根拠に基づく情報発信を目的として「日本水環境学会COVID-19タスクフォース」が設立されました。

昨年末には、学会ホームページに開設したCOVID-19特設ページで「下水中の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル（暫定版）」を公表しました。マニュアルは、これまでの国内外の研究成果等から現時点で有用と考えられる下水中の新型コロナウイルスの検出手法と手順について情報提供を行うもので、日本下水道新技術機構による委託研究事業の一環として作成されたものです。

こうした取組みからもタスクフォースの設立は、学会のプレゼンス向上にもつながったと実感していますし、メディアへの発信という意味でも非常に意義のあるものだと報告を受けています。

いつもと変わらぬ年会を

学術的な意義高い存在に

■節目の50年を目前に

今回の年会はオンライン開催となりますが、次さらに今こそ、折り返し地点だと思っています。このような節目の時期に、新たな分野への展開で社会における学会のプレゼンスを向上できたのでないかと、非常に喜ばしく思っています。

50周年については、学会を挙げて盛大にお祝いしたいと考えています。そのため、一昨年には担当理事を置いて、準備を進めています。記念式典や祝賀会は世の中が落ち着いて、安全な時期の開催を考えていますので、今年中は難しいのではないかと考えています。ですが、50周年の気運を盛り上げるためにも、今年中にこれまでの学会誌における企画を一つの冊子にまとめる記念出版を行います。

この冊子で、50年間の企画を取り上げることで、目まぐるしく変わってきた水環境の変遷を振り返り、次の50年につながるようなものにしたいと考えています。

■学会のプレゼンス向上へ

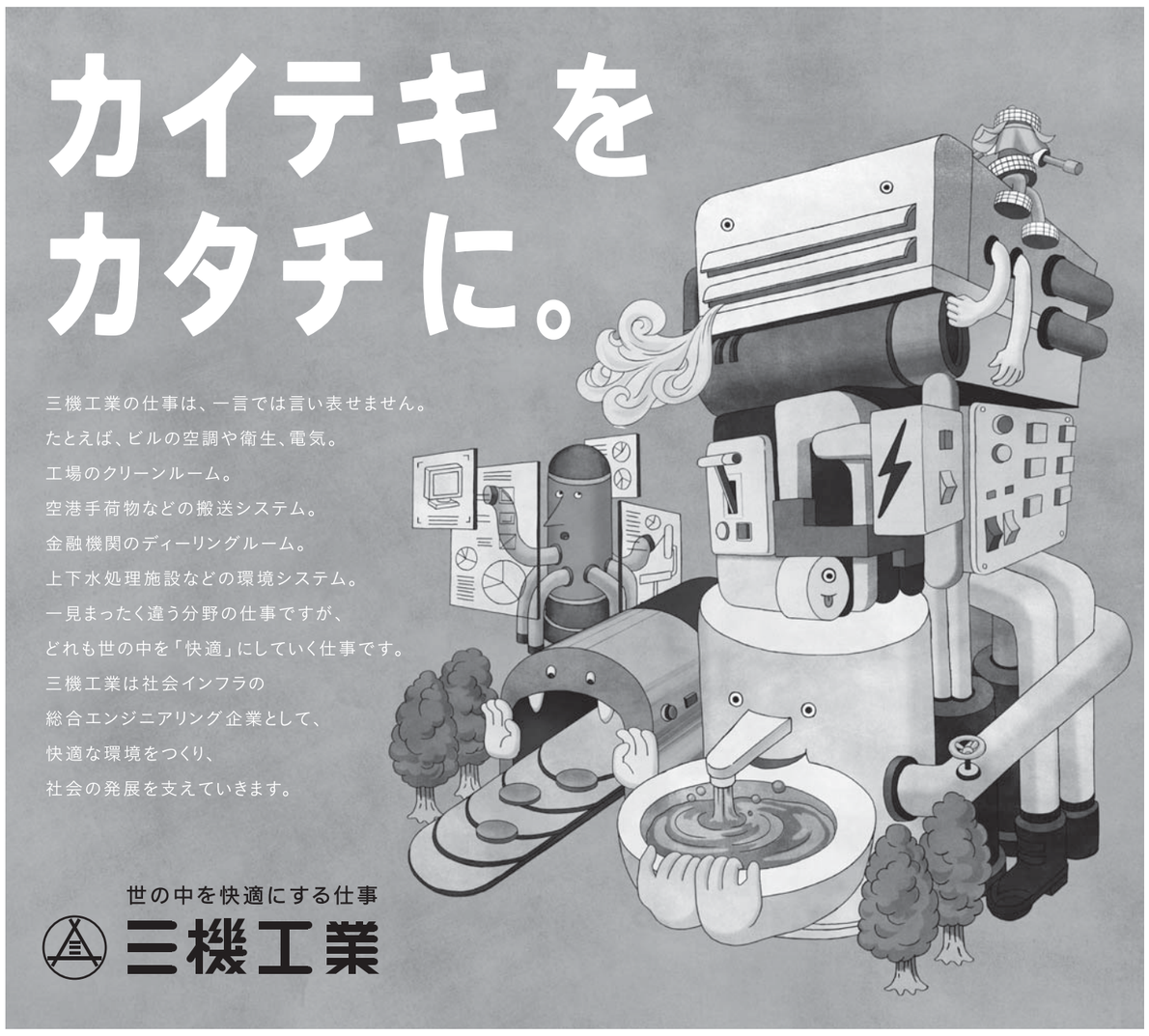
最後になりますが、水は人間の生活に不可欠なものであり、地道でも継続的に研究を続けていく必要のある分野だと確信しています。その中で、特に若い研究者には、新しい考え方をどんどん模索していってほしいと思っています。そうすることで、コロナウイルスのような不測の事態が起きた時にも対応し、新しい展開を生み出せるのではないでしょうか。たとえ今、脚光を浴びていない分野だとしても、将来の展開を見据えて自らの興味で基礎研究を継続してほしいと思います。

学会としては、学術的な側面と社会的な側面の両方の意義を持った存在であってほしいと思います。

水環境に貢献する学会という面で社会的な存在意義は十分であると思います。新たな課題を発見し、解決へ向けて貢献して行くことが期待されます。と同時に、これまで以上に高いレベルの研究を行い学術の発展に寄与し、数ある学会の中で本会のプレゼンスの向上を図っていければと思います。

そして、学会員の中だけでなく、学会員以外にも「重要な課題ですね」「面白いことをやっている」「すごいことをやっている」と言われるような学会であってほしいと思います。

第55回日本水環境学会年会

【概要】
主催：公益社団法人日本水環境学会
共催：京都大学
期日：2021年3月10日（水）～12日（金）　3日間
会場：オンライン開催

【プログラム】
開会式　10日（水）　8：45～9：00、A会場
特別講演　「コロナ後の人と自然の関係について考える」
京都大学名誉教授・山極壽一氏
11日（木）15：15～16：15、特別会場1
研究発表
・一般講演（口頭発表）　A会場～J会場
・一般ポスター発表
Webシステムでの掲示期間：　3月4日（木）～12日（金）
Zoomでの自動再生：　10日（水）～12日（金）
コアタイム（Zoomによる質疑）：　11日（木）13：30～15：00、A会場～D会場
・年会優秀発表賞（クリタ賞）ポスター発表（一次審査通過者）
Webシステムでの掲示期間：　3月4日（木）～12日（金）
Zoomでの自動再生：　10日（水）～12日（金）、
コアタイム（Zoomによる質疑）：　11日（木）10：45～12：00、A会場～C会場
・年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）
Webシステムでの掲示期間：　3月4日（木）～12日（金）
Zoomでの自動再生、　10日（水）～12日（金）、
コアタイム（Zoomによる質疑）：　10日（水）13：30～15：00、A会場～D会場
表彰式（水環境文化賞・みじん子賞・国際活動賞〈いであ活動賞〉・国際招聘賞〈JSWE－IDEA WaterEnvironment International Exchange Award〉）　11日（木）16：15～17：15、特別会場1
学生向けオンラインセミナー「水環境ビジネスガイダンス」
11日（木）12：20～13：20、E会場
学生向け会員企業・研究機関等就職説明会
11日（木）13：30～16：00、特別会場3
年会優秀発表賞（クリタ賞）・年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）受賞者発表および閉会式　12日（金）15：05～15：45、A会場
併催行事
（1）オンラインセミナー
「I－MS／MSを用いた陰イオン類・極性農薬の分析とプロセスイオンクロマトグラムによる分析のリモート管理のご紹介」サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社：
10日（水）12：20～13：20、特別会場2
「水中PFAS分析におけるポイントと自動化製品のご紹介」ジーエルサイエンス株式会社：　11日（木）12：20～13：20、特別会場2
（2）全国環境研協議会研究集会：
12日（金）9：00～12：00、特別会場3